極めておいしいイチジク新品種
「Ｈ１５６－７０」の育成

豊前分場

１　背景、目的

本県産のイチジクは、栽培が容易で収益性が高く水田転換園に導入しやすい果樹として栽培面積が増加傾向にあります。全国的にもイチジク栽培面積は増加傾向にあり、今後の産地間競争の激化が予測されます。国内の主要なイチジク品種は「桝井ドーフィン」と「蓬? 柿」のみで、本県でもこの両品種が基幹品種となっています。両品種とも果実が大きく収量は多いが、肉質が粗く糖度がやや低いという欠点をもっています。

そこで、本県産のイチジクを有利に販売するのため、全国に先駆けて既存品種並みの収量があり、しかも糖度が高く食味が優れる新品種を育成しました。

２　成果の内容、特徴

１）本県育成系統の「H180-156」を母親に、「M106-238」を父親にした交配組み合わせから誕生した品種です。

２）樹姿は開張と直立の中間で、樹勢は中位です。新梢の発生数が多く葉は小さく「桝井ドーフィン」と同様に一文字整枝に仕立てることができます。

３）収穫開始は８月中旬で「蓬? 柿」並みで、着果数が多く結実良好で「蓬? 柿」並みの収量が見込まれます。

４）果実は卵形で、大きさは「蓬? 柿」並みです。果皮は赤紫色で、着色は「桝井ドーフィン」並みで「蓬? 柿」より優れます。果肉は紅色で、肉質緻密で果汁が多く、糖度が連年安定して高く、これまでのイチジクにない食感で極めて良食味であるのが特長です。裂果性は少なく、日持ちは「桝井ドーフィン」並みです。

５）病害抵抗性は既存品種並みですが、スリップス被害が少なくなります。

3　主要なデータなど

- H180-156（♀）
  - 蓬? 柿（♀）
  - VC-180（♂：ﾋﾞｵﾚｰ･ﾄﾞｰﾌｨﾝ × ｶﾌﾟﾘﾌｨｯｸﾞ6085）
- M106-238（♂）
  - 桝井ドーフィン（♀）
  - VC-106（♂：ﾋﾞｵﾚｰ･ﾄﾞｰﾌｨﾝ × ｶﾌﾟﾘﾌｨｯｸﾞ6085）

図１　「Ｈ１５６－７０」の系統

写真１　「H156-70」の原木

写真２　「H156-70」の結実状況

写真３　「H156-70」の果実

表１　「Ｈ１５６－７０」の生育および果実品質

品　種	樹姿	収穫開始	果重 g	果皮色	着色割合 %	果肉色	糖度 Brix	果肉密度
H156-70	中間	８月中旬	83	赤紫	63	紅	17.4	密
桝井ﾄﾞｰﾌｨﾝ	開張	８月上旬	78	赤褐	67	紅	15.3	中
蓬? 柿	直立	８月中旬	85	赤紫	50	紅	15.6	中

注）1.果重、着色割合、糖度は平成14～15年の平均値（豊前分場）
　　2.果肉密度は、粗、中、密の３段階表示。